

長崎県地学会誌

第 19 号

1973

(一瀬亘会長喜寿記念号)

目 次

一瀬亘会長喜寿記念

長崎県地学会の思い出…………… 一 瀬 亘…………… 2

研究発表

長崎県石炭鉱業の現状(昭和48年3月)…………… 一 瀬 亘…………… 3

長崎市(三重)檜山の地質構造と地下水…………… 石 井 哲 夫…………… 5

平戸層に関する2, 3の新事実と問題点…………… 鎌 田 泰 彦…………… 8

EDTA法による岩石の定量分析(2)

—粘土・粘土鉱物の Al_2O_3 について—…………… 早 田 常 盤…………… 15

地学教育

高等学校の地学教育の現状…………… 石 川 直 衛…………… 17

他山の石

われわれの下の陸地…………… 鎌 田 泰 彦…………… 23

日曜地質巡検会記事

針尾島(葉山~西海橋)…………… 阪 口 和 則…………… 27

長崎県地学会創立10周年記念大会討論会…………… 30

書 評

野田光雄: 大学教養 地学…………… 4

小島郁生: 恐竜博物館 生まれ, 栄え, 滅んでいった動物たち…………… 16

長崎県地学会記事…………… 表うら 32

昭和48年3月

長崎県地学会

長崎県地学会誌投稿規定(案)

1 投稿資格 本会の会員であれば、だれでも会誌に報文を投稿できる。但し、運営委員会で認められた場合には、非会員に投稿を依頼することがある。

2 出版費 会員の投稿する報文には投稿料を要しない。出版費の全額を会費でまかなう。

3 報文の受理 編集委員は、投稿された原稿が本会の目的にかなう内容であると認めたものに受理月日を付し、著者に掲載号数と発行予定日を連絡する。訂正を要する原稿は、その理由を付して返却し、再提出を求めることがある。

4 報文の種類 報文はかけには未発表のものが望ましい。種類として次のようなものがあるが、これらの区分のいずれにも属さないものであっても差支えない。

研究発表(原著論文) 資料 講座 地学教育
教材研究 他山の石 随想 書評 抄録 日曜
地質巡検会記事

5 編集・校正 会誌の編集と校正は、理事会でえられた編集委員が行なう。

6 報文の用語 報文は和文とする。とくに外国文を用いる場合には、邦文要約をつけることが望ましい。

7 原稿の書き方 報文は簡潔にわかりやすく書く。文体は国語体、かなは平がなとし、なるべく当用漢字、新かな使いによることが望ましい。

原稿を書く時は、次のことがらに留意されたい。

(a) 原稿用紙は400字詰を使用し、必ず横書きとする。(およそ4枚で1印刷頁となる。)

(b) 文章の書き出し、および改行は1字下げて始める。句読点、や、括弧(「)などの記号

は1字分とる。数字やローマ字は1ますに2字入れる。

(c) 図・表・写真は、本文を理解するのに最小限必要なもののみにとどめる。

(d) 図は、そのまま製版できるように、白紙(トレーシングペーパーか、青色セクションペーパーなど)に、製図用インクか、墨(万年筆用黒インクは不可)で書くこと。図の大きさは印刷時の縮小を考慮して書くこと。とくに地図の場合、縮尺何分の1とはしないで、縮尺(スケール)をつける。

(e) 写真は白黒のコントラストの強い明瞭なものを用いる。

(f) 図・表・写真には本文とは別に説明をつけることが望ましい。また本文中にはりつけしないで、原稿用紙の欄外にその挿入位置を指定する。

(g) 引用文献は、報文の最後にまとめ、著者名のABC順にならべる。同一著者のものについては発表順とする。

8 別刷 報文には、別刷30部を無料で著者に進呈する。これ以上の部数に対する増刷の注文は受けない。

9 発行予定日 会誌は、8月下旬と、翌年2月下旬の年2回の刊行を予定している。したがって、原稿はその約1月前までに事務局に到着するように送られたい。

10 原稿の送り先

〒852 長崎市文教町1-14

長崎大学教育学部地学教室内

長崎県地学会

昭和48年度より本投稿規定を実施し、会誌の充実と編集事務の円滑化をはかりたいと思います。本案に対する御意見や疑問の点があります時は遠慮なくお聞かせ下さい。次号(第20号)の原稿は、7月下旬頃までに投稿して下さい。(事務局)